



## 2018年度活動報告 ビジネス日本語C

著者	山田 真知子
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	8
ページ	100-100
発行年	2019-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10236/00028133">http://hdl.handle.net/10236/00028133</a>

## 2018 年度活動報告 ビジネス日本語 C

山田 真知子（関西学院大学日本語教育センター）

### 1. クラス概要

本科目は、上ヶ原キャンパスでは春学期と秋学期、三田キャンパスでは秋学期において、1 週間に付き 1 コマ開講されている。自己分析や企業分析を通じて、就職活動の面接対策や自己 PR 文、志望動機などといった履歴書やエントリーシートにある質問事項が書ける、もしくは言えるようになることを到達目標としている。

### 2. 授業内容

本科目では、ラーニング・アシスタント（以下 LA）を採用している。毎時間、留学生と LA が混合でグループになり、ディスカッションや情報交換など課題に対しての協働作業をおこなった。

表 1 2018 年度ビジネス日本語 C 授業シラバス

第 1 回	オリエンテーション	第 8 回	発表（自己 PR） 2 回目
第 2 回	なぜあなたは働くのですか	第 9 回	企業分析（3C 分析）
第 3 回	WANT・MUST・CAN を明確に	第 10 回	企業分析（SWOT 分析）
第 4 回	問題解決ワーク（発表の構成）	第 11 回	自己分析・企業分析の連結図
第 5 回	自己分析（小学校から高校時代）	第 12 回	エントリーシート
第 6 回	自己分析（大学時代）	第 13 回	学期末試験（履歴書作成）
第 7 回	発表（自己 PR） 1 回目	第 14 回	試験のフィードバックとまとめ

### 3. 成果と今後の課題

授業内では留学生と LA とが協働学習をおこなうことで学びを深めていった。留学生は、特に自己分析を苦手とする傾向が見られること、また、文章の構成力や日本語の表現力に課題があるため、グループ内もしくは授業全体において自己表現をおこなう機会を多く設けた。本科目は、性質上各課題に対し、得意なこと不得意なことの個人差が出やすい。したがって、事前課題を明確にし、授業内では自分の力だけではできなかったことを埋めていく作業や課題をさらに深めていくことなどの活動が中心となるよう工夫した。また、課題や最終試験においては、必ず個別にフィードバックをする時間を設けた。